



概
会
人
五
百
部



今人五百題秋之部目錄

時候之部

名月	一	二	三	名月兩	三	名月餘	三
月見	二	秋月	三	月	三	初月夜	四
三日月	四	待夕	五	十六夜	五	後の月	五
霜月	六	文月	六	夕月	六	夕月	六
初秋	六	五秋	七	夕の秋	七	七夕	八
星合	八	宵小袖	八	願系	九	旛彙	九
天藻	九	旛彙	九	切子	十	言旛彙	十
于蘭盆	十	撰待	十	迎火	十	送火	十
草市	土	螺祭	土	玉棚	土	搬強	土

氏友

氏女

暮春	土	生石玉	土	孟の月	土	をり	土
西瓜	土	花火	土	残暑	土	お撲	土
秋風	土	忘扇	土	初嵐	土	處	土
露	土	二百十日	土	稻葉	土	野分	土
連福	土	后穂穂	土	木綿取	土	田刈	土
貯曳	土	放生會	土	初汐	土	八朔	土
引板	土	桑山子	土	為水	土	淡船	土
落船	土	初蛙	土	崩築	土	河鹿	土
沙真	土	舟市	土	新衣	土	掃衣	土
新衣	土	お重	土	處分	土	冷	土
新酒	土	秋日和	土	長夜	土	秋分	土

秋草 廿四 柿 廿四 葡萄 廿四 若菜 廿五

秋水 廿五 露 廿五 秋雨 廿五

植物之部

桐一葉	其	柿	其	子花	其	女名花	其
木槿	廿七	葛花	廿七	鼠尾草	廿七	菘袴	廿七
蔓珠沙花	廿八	男へ	廿八	新衣	廿八	芙蓉	廿八
秋海棠	廿九	赤木香	廿九	萩	廿九	萩	廿九
蕎麦花	三十	稻花	三十	夜の心	三十	系瓜	三十
瓢	三十一	蘭	三十一	芭蕉	三十一	花笠	三十一
桔梗	三十二	芒	三十二	紫苑	三十二	野菊	三十二
鬼灯	三十三	雞頭	三十三	鳳仙花	三十三	蓼花	三十三
稻	三十五	芦の花	三十五	ま	三十五	尾	三十五

秋月二

うらな	三六	鳥瓜	三五	草	三五	梅	三五
ぬうあ	三七	芋	三七	うらかや	三五	木屏	三五
木の實	三七	柿	三七	草	三五	草持	三五
粟	三六	葵布	三五	木絨刈	三五	草持	三五
草紅葉	三九	紅葉	三九				
生類之部							
虫	四一	秋蟬	四一	秋螢	四一	秋條	四一
秋飯	四二	秋幌	四二	葉毛	四二	蟻	四二
秋の虫	四三	いこ	四三	陣	四三	蟻	四三
冬毛	四三	稻	四三	綯	四三	蟻	四三
下	四四	稻	四四	きき	四四	蟻	四四
鶴	四五	鴨	四五	乙	四六	蟻	四六

鹿笛 四六 鹿 四六 九月冬 四七 行秋 四七
暮秋 四七 朗詠 四八

部外百七十五歌

今人五節候冬之部目録

降物之部

初雪	一	雪	二	雪吹	四	志守紀	四
初時雪	四	時雨	五	うき氷	六	霰	六
子お	七	雪止	八	冬止	八	氷柱	八

時候之部

卯正月	九	小正月	九	卯正月	九	師走	十
初冬	十	冬止	十	神送	十	神苗守	十
神迎	十	美珠	十	子燈心	十	吹草祭	十
神楽	十	里神楽	十	十歌	十	連戸忌	十
佛余講	十	まきと忌	十	湯取裁	十	佛傳名	十

節扣

植物之部

竹	十四	木の葉	十五	冬草	十五	風	十六
栝柳	十六	数紅葉	十六	湯花	十七	松の葉	十七
山茶花	十八	ハツ手	十八	冬栝	十八	冬栝	十九
冬牡丹	十九	水仙	十九	栝尾花	二十	栝尾	二十
冬草	二十	冬草	二十	石路花	二十	栝蓮	二十一
栝芦	廿一	冬栝	廿一	算栝	廿一	冬山	廿一
栝野	廿二	栝野	廿二	大栝引	廿二	冬山	廿二
干菜	廿三	葱	廿三	麦荷	廿三	冬山	廿三

生熟之部

鮫鱈	廿四	子鳥	廿五	水鳥	廿六	鴨	廿六
----	----	----	----	----	----	---	----

冬月	廿六	湯多湯多	廿七	木窓	廿七	冬月	廿七
冬月	廿八	冬月	廿九	冬月	廿九	冬月	廿九
冬月	廿九	冬月	三十	冬月	三十	冬月	三十
冬月	三十	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月

時多中之都

冬月	廿九	冬月	三十	冬月	三十	冬月	三十
冬月	三十	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月
冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月	冬月

初命 百何千七歌

今人五百題發句集

秋之部

ハ雲 東漢
涉壁 千輅

輯 按

名月の重露を思ふよ文をくろ
唯々や一星あきき 烟 七重
名月やもろの湖水の隠る道
唯々や紅葉の片も嘆をふい
名月の入山赤く又見えよけり
唯々や路へ又ある川系を
名月や原のうけさ故人の上
唯々や輝く志をふく文の世

由誓 沙鷗 蛸山 臺標 史子 甫旧 双鳥 鳳朗

名月

名月やあけそらに照らすおぬ
明くや河を流るる水、大橋
名月やゆつたうて月の清き
明くや柳打と春さ松のうけ
名月や祝う春の松の露
明くや春のあけそらに流るる
名月や中ら松のうけを
明くや照らすうららかに梅如
名月や思ひやらうと輪の暮

大橋
得善
卓史
三岳
万頃
波同
其流
梅室
千輪
風館
木

乃月

名月

名月やあけそらに照らすおぬ
明くや河を流るる水、大橋
名月やゆつたうて月の清き
明くや柳打と春さ松のうけ
名月や祝う春の松の露
明くや春のあけそらに流るる
名月や中ら松のうけを
明くや照らすうららかに梅如
名月や思ひやらうと輪の暮

眉山
若非
月底
砥山
斗南
梅室
十皓
蒼乳
蓬流
黄山

初月夜

初月夜の歌を詠ふは初月夜
若松の歌を詠ふは初月夜
初月夜明るは初月夜
井の蓋を蓋ては初月夜

橋川
漢島
赤漢

三日月

三日月やたき本をたきし
三日月をとりし
三日月や朝をたきし
三日月や
三日月や
三日月や
三日月や
三日月や
三日月や

一異
月感
島左
赤子
而石
一貞
卓池

待霄

待霄の歌を詠ふは待霄
待霄の歌を詠ふは待霄
待霄の歌を詠ふは待霄
待霄の歌を詠ふは待霄
待霄の歌を詠ふは待霄
待霄の歌を詠ふは待霄
待霄の歌を詠ふは待霄
待霄の歌を詠ふは待霄
待霄の歌を詠ふは待霄
待霄の歌を詠ふは待霄

逸雨
逢依
花頭
由誓
千菰

十六夜

十六夜の歌を詠ふは十六夜
十六夜の歌を詠ふは十六夜
十六夜の歌を詠ふは十六夜
十六夜の歌を詠ふは十六夜
十六夜の歌を詠ふは十六夜
十六夜の歌を詠ふは十六夜
十六夜の歌を詠ふは十六夜
十六夜の歌を詠ふは十六夜
十六夜の歌を詠ふは十六夜
十六夜の歌を詠ふは十六夜

梅言
樹朝
葉机
卓池

秋の朝

滯砂のつらさ秋の川霞木身
秋夕の霞らさるるおく川岸
秋夕の霞らさるるおく川岸
秋夕の霞らさるるおく川岸
秋夕の霞らさるるおく川岸
秋夕の霞らさるるおく川岸
秋夕の霞らさるるおく川岸
秋夕の霞らさるるおく川岸
秋夕の霞らさるるおく川岸
秋夕の霞らさるるおく川岸

橋通 蓬岸 大橋 杜曹 濁星 礫山 礫見 事則 知也 千輪

夕

七夕やをさるる秋の霞らさる
七夕やをさるる秋の霞らさる
七夕やをさるる秋の霞らさる
七夕やをさるる秋の霞らさる
七夕やをさるる秋の霞らさる
七夕やをさるる秋の霞らさる
七夕やをさるる秋の霞らさる
七夕やをさるる秋の霞らさる
七夕やをさるる秋の霞らさる
七夕やをさるる秋の霞らさる

夕 沙 節之 湖山 得基 井外女 弄化 溪高 一具 風朝 橋音

星

い

小質袖

只一敷星のまゝあはれり 別れを
ももてくはゆふの涙 星は
これより去る 志す所を 望む
星をまもるぬ 舟や舟アを
あつたる舟のふりや 津舟
をまねのきしを 望む星の
何をもつくの 望む星を
あつた星のふりや 望む星

早池 丁志 岐田 南溪 逢原 山谷 由誓 蒼乳 托儀 素殿 七くら

願

糸

梶

葉

天の河

糸うけの計り 願ひあはれり
糸新の糸の糸や 供ひもの
糸新の糸の糸や 供ひもの
糸新の糸の糸や 供ひもの

双鳥 小義 逸淵

梶の葉や 水糸の糸や 望む
のちの糸の糸の糸や 望む
梶の葉や 水糸の糸や 望む

若非 警水 蒼乳

その川をよきや 望む
若年の糸あはれ 望む
若年の糸あはれ 望む

板室 山外 九美

籠ら 燈と

晴て秋光るるも亦一この川
青きもくはゆきり水やその川
明きもむきまのまややその河
そらうらうもまた川に流るやその河
照つてあー河のまき木やその河
空を抜く舟やその影をこの川

大橋 波文 若旅 鼎左 乾名古 千秋

燈を巻や箱をえのする舟の裏
あのを巻れぬる燈籠よ終るまで
捨てぬるもくもくもくもくもくもく
年とあとのりあうにつるもくもくもく
二つあてはるるもくもくもくもくもく

蒼乱 逸淵 粗文 呂叟 祇白

切きり 籠ら

高たか とくとく

河岸所の世まうるもくもくもくもく
ちとあつと切つてつるもくもくもく
領地を切るもくもくもくもくもく
燈籠を巻るもくもくもくもくもく
人形とまの舟まうるもくもくもくもく

史十 得呈 得取 風語 千秋

よの好もくもくもくもくもくもくもく
青の口もくもくもくもくもくもくもく
さうらうと切るもくもくもくもくもく
厚く切るもくもくもくもくもくもく
通るもくもくもくもくもくもくもく

抱信 山外 千秋 松竹 花雪

手^り 蘭^は 盆

盆用言はけの壽辰もさうせり
はや町や人やさあきき盆の
兄弟のもて何事たるも盆は

車池
連海
若か

せら
心

捨待や雇われたる人備へ
せんたいや毎を種々の列れを
堪待やふ改も体む木の紐

杜
文鯉
松

む^ひ 迎^ひ 火

車中や福風去く人あつ
近火を又て森香や門の火
近火や燈丸の西吹出り

松
そ見
獲物

お^き 送^り 火

おきり火や燈本つひり
送り火とききえり所の月と

大
車池
松

ふ^き 市

ふき市のたつとそこれハ果
戸も燈ぬ門はよきと子の市

由
省
鳥

た^ま 煙^た 祭

煙たの煙博もあつてお祭り
茅新祭のまはるもくまお祭り
ひしきと年 鄙めたるり

煙
鳥
祭

お桐やお祭りといへば

一
具

魂たま

柵たな

柵たな

強きやう

蔓たな

蔓たな

生い身み玉たま

月つき盒はち

たな柵やまきさかたな人のま
魂柵やまのまき子のま
あなまのまきかたのま
たまあまのまきかたのま
魂柵をまきかたのま
あなまのまきかたのま

しらぬ
あま
若人
五木
佛見
千粒

柵のまきかたのま
たま強やまきかたのま
柵強やまきかたのま

風能
噴谷
小義

代まき花をまきかたのま

二二

蔓のまきかたのま

蔓首

生身のまきかたのま
玉のまきかたのま

麻交
逸淵
千粒

月盒のまきかたのま

案古
確額
心阿

老ま歸一芳能一和も夏の月

東漢

影中れりるやもをを能きも海

由誓

手物子の按ふ海や秋の月

月契

海をさるるをゆりて又月海を

野巢

海をのちの海を海よりしを

素暮

海を和むとあるや海を海を

佛兄

海を海をいくすこく又海海を

春里

祖父海ありのまなしてを海

了日

海のよすしを海を海を海を

夷則

海を海を海へ海を海を海を

蓮丘

を 聖 王

瓜 西 あひら

花 火

ち入りの子の海を海へ海を

海宮

おりのせしりしを海を海を

養支

海を海を海を海を海を海を

無量

忽ち海の海を海へ海を海を

赤木

海を海を海を海を海を海を

赤木

海を海を海を海を海を海を

赤木

海を海を海を海を海を海を

赤木

海を海を海を海を海を海を

赤木

海を海を海を海を海を海を

赤木

ふる人の眼もさくら白雲の意なき

梅香

残暑 暑

あつと秋をまのふ残暑
夕秋のたわしく秋の暑
汗とれぬ字ゆえ残暑
涼やま茶の白くさん
汁の菓の出たる秋の暑

松竹
鼎脚
汗蒸
一具

長夏もらん秋意は南の
古里で静息よあや
夕涼をさしひか
庭の秋のあつとる

梅香
庄鳳
江夢
大鵬

秋 撲

向あつとる秋意は南の
揺ひあつとる秋の暑
涼よさうあつとる秋の暑
あつとる秋の暑
あつとる秋の暑
あつとる秋の暑

祖々
蓬湯
秋明
涼夏
素文
一月
由誓

秋の涼しむの秋の暑
あつとる秋の暑
あつとる秋の暑
あつとる秋の暑
あつとる秋の暑

秋身
小柯
若旅
葉露

岩橋集よと通しと御初秋
一真

三ハ秋夜を夜宿葉のちり
山骨

ふあけやけのり夜半一葉の影
得筆

吹出たけし流や今く流の玉
芳英

遠くわる懸念結の色や折の春
文書

方々の雨を降や秋の夜
秋言

流房つまき人七あり神の夜
風情

定ぬのまほきあしあうまの舟
湖心

まろくまそし葉もまろく葉の色
山

あわれしとまろく葉もまろく葉の色
山

あつとと松唯をまろく葉の色
波同

まろくまろく葉もまろく葉の色
由誓

風のたろりかきまろく葉の色
己子

まろくまろく葉もまろく葉の色
在信

まろくまろく葉もまろく葉の色
子路

唯を秋を毛路の赤く柳葉山
侍年

川毛路の柳をあまろく葉の色
汝時

毛路まろく葉もまろく葉の色
一具

まろくまろく葉もまろく葉の色
事案

まろくまろく葉もまろく葉の色
山

露

未
り

二百
十日

取らるる二百十日の、多事うの
清らかなるたふふ十日の、稲の月

得菴
松孫

稲

妻

稲妻あやうき、長き、松の如く

いふ、くまを、くま、くま、松うき

稲妻あや、くま、鬼のつぎ、くま

くま、月、くま、稲、くま、松、くま

稲妻あや、くま、くま、くま、くま

いふ、くま、くま、くま、くま、くま

稲妻あや、くま、くま、くま、くま

いふ、くま、くま、くま、くま、くま

稲妻あや、くま、くま、くま、くま

いふ、くま、くま、くま、くま、くま

車池
松竹
嵐外
李且
蓮宇
ゆきめ
由誓
松を
五株
一畑天
一庭

の
己
記

城崎の、松、くま、くま、くま

くま、くま、くま、くま、くま

くま、くま、くま、くま、くま

くま、くま、くま、くま、くま

くま、くま、くま、くま、くま

くま、くま、くま、くま、くま

くま、くま、くま、くま、くま

くま、くま、くま、くま、くま

くま、くま、くま、くま、くま

大松
松像
成兩
百畝
南志
由誓
千輪
菴化

速稲

のうちふんは、あう穂ゆふ稲一畝
速稲のちをよそへて、あう穂ゆふ
早稲のちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ

完田 善非 一里 梅香

穂

あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ

護物 租人 万頃

穂

あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ

素行 小葉 蘭和

田

あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ

下 田 萬頃

穂

あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ

亥子 得善

彼岸

あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ
あう穂ゆふのちをよそへて、あう穂ゆふ

月貨 万頃

初汝

初汝や... 萬の... 牛

五玉 万頃 牛玉

八朝

八朝の... 舟... 舟

月庭 舟山 舟池

二敵

二敵... 舟... 舟

紫金 吏川

放生會

放生會... 舟... 舟

舟池 茶新 舟池

二見

二見... 舟... 舟

舟池 舟池

未

未... 舟... 舟

舟池 舟池

引板

橋をくく行のまもひくひり
門のつ子さきを敷へり
あまの家の向ふも
さきの家の向ふも
さきの家の向ふも

んまー月とる人、川板の音
あまの家の向ふも
さきの家の向ふも
さきの家の向ふも

子葉

まかーあ秋子似と表を
くひくハ敷てまの
あまの家の向ふも
さきの家の向ふも
さきの家の向ふも

干魚りあまの家の向ふも

水掛

はやくと深深き
あまの家の向ふも
さきの家の向ふも
さきの家の向ふも
さきの家の向ふも

井資 由警 干絲 護物 由警 逢流 由警 梅室 車池 連升 東漢 一具 海是 極白 事漢 事會 東漢 干載

際やい船ふね

岸ありふりあられし船はる
船のりをのりて船はる

船ふね 琴こ 雅みやび

船ふね 船ふね

船をえりやふゆり
船のよきや道はし

大おほ 船ふね 船ふね

初はつ 船ふね

船のよれし船はる
船のりをのりて船はる

由よし 船ふね 船ふね

船ふね 船ふね

船のよきや道はし
船のりをのりて船はる

由よし 船ふね 船ふね

河かわ 鹿しか

鹿のよきや道はし
鹿のりをのりて鹿はる

万よろ 鹿しか 鹿しか

船ふね 魚うしほ

魚のよきや道はし
魚のりをのりて魚はる

丁てい 知ち 魚うしほ

船ふね 市いち

市の中へちとちあふりし市の舟
舟のりや道はし

由よし 市いち 市いち

新

は

新はは子ゆい 糸の如く 古傳の如く
新はは子ゆい 糸の如く 古傳の如く

柳 雜 得 蘇

擣

夜

小曲をたふす 何れも 山をこし
新をひくつ まをたふす 碓氷
高知の先たち あり 碓氷
十ていこう 傳つていこう 碓氷
新をひくつ まをたふす 碓氷
岬もひくつ まをたふす 碓氷
おやう 碓氷 碓氷の如く 碓氷
ふさふさ 碓氷の如く 碓氷
碓氷 碓氷の如く 碓氷

茶 礼 太 光 若 非 菊 春 木 木 一 貝 里 冬 左 尔

朝寒

冷きも あり 色は けのき ぬき ぬき
こは 傳を けのき けのき 碓氷 碓氷
ゆき けのき けのき けのき 碓氷 碓氷
母を たふす 又 あり けのき けのき 碓氷
碓氷 けのき けのき けのき 碓氷 碓氷
碓氷 けのき けのき けのき 碓氷 碓氷
朝寒 けのき けのき けのき 碓氷 碓氷
けのき けのき けのき けのき 碓氷 碓氷
碓氷 けのき けのき けのき 碓氷 碓氷
碓氷 けのき けのき けのき 碓氷 碓氷

完 樓 氷 在 碓 氷 由 警 子 強 了 了 泉 枝 心 心

夜よ 二 三 七

用のふん世のくまなくあそび
影をよきまのちふれりかき
まひきくまをまきこのちり
あひくくしりくあそびあそび
澄の柄をまけてあそびあそび
かこつりか又由も夜まき

確 類
花 徳
茶 礼
松 言
若 非
千 輪

つひ 二 三 七
露 二 三 七
寒

あそびのまきあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび

海 奇
左 身 奇

ひ 二 三 七
冷

冷つまのひまきあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび

月 庭
唯 山

観 二 三 七
酒

あそびのまきあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび

松 庭
風 池
徐 全
大 橋
去 子
茶 礼
卓 池
由 聖

秋 二 三 七
日 二 三 七
和

あそびのまきあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび

一 具
楓 下

長

夜

秋

思ふにたゞしあつてあつてさびさび秋
 七重八重を浪つたつとや秋の夜
 月のあつたつたもさびれしむ秋
 秋の夜もさびし切りの秋の夜
 世はかくとり寝るれはあつたし
 秋の夜もさびし切りの秋の夜
 秋の夜もさびし切りの秋の夜

江月
 与香
 由香
 一具
 紫金
 千珠
 暖氣
 卧息
 慈光

秋乃暮

秋の暮もさびし切りの秋の夜
 秋の暮もさびし切りの秋の夜
 秋の暮もさびし切りの秋の夜
 秋の暮もさびし切りの秋の夜
 秋の暮もさびし切りの秋の夜
 秋の暮もさびし切りの秋の夜
 秋の暮もさびし切りの秋の夜
 秋の暮もさびし切りの秋の夜
 秋の暮もさびし切りの秋の夜
 秋の暮もさびし切りの秋の夜

山露
 砂粒
 云和
 由普
 多あ
 茶粋
 心洲
 庭
 波回
 天姥
 梅香

柿

柿のちみぢり
もむ月よ木の柿たしく儂
柿多やそれか鹿の 着い糸
おれくしては柿柿の本葉うす
柿の星をゆきけり 醉人を
柿柿もみぢりく白の金うす
柿とらをあたれさそおの柿身
赤いめを見つうるあうぬ庵の柿
あふくとあふれうはるあふ
柿柿もみぢりく白の金うす

由 薯
松 竹
水 竹
江 月
黄 心
波 田
黄 之
千 秋
里 妻 女
海 菟

葡萄

葡萄のちみぢり
あふくとあふれうはるあふ
柿柿もみぢりく白の金うす

相 丈
舟 記
而 后

菊

菊のちみぢり
あふくとあふれうはるあふ
柿柿もみぢりく白の金うす

舟 池
護 初
沙 路
平 山

秋の水

秋の水のちみぢり
あふくとあふれうはるあふ
柿柿もみぢりく白の金うす

梅 今
由 雪
一 貞

つる

つるのちみぢり
あふくとあふれうはるあふ
柿柿もみぢりく白の金うす

一 貞

秋 雨

木をさかす七夜の間は晴然秋の
晴き夕の又もきいりのかゝり
津中しを字を二度舟か秋の雨
秋の雨は通すも此のぬき
端雨の 雨のさすれは武左海
多きつる笠の換りか秋の雨
杉尾多しは秋の暮に秋の雨

大 著 藤 船 考 卓 一
木 非 芝 村 則 池 具

桐 葉

新 散
やみ
ち
ち

多秋や一葉を落しと何の事
落し見と散るはあつた桐の葉
桐一葉を落しと何の事

一 唐 主
月 龍 分

桐の葉のまゝも落しと何の事
散の暮ももろはれと一葉散
桐一葉を落しと何の事
何れもとて落しと何の事
門掃きも落しと何の事

是 成 素 香 大 未
微 芝 新 見 松 陰

桐の葉のまゝも落しと何の事
散の暮ももろはれと一葉散
桐一葉を落しと何の事
何れもとて落しと何の事
門掃きも落しと何の事

由 山 冬 山
誓 黄 山 石

花

花

梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ

梅 実
花 實
由 誓
先 外
禮 物
東 漢

花
花
花

梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ

大 梅
卓 池
一 具
美 札
主 馬

梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ

梅 實
花 實
由 誓
先 外
禮 物
東 漢

梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ
梅のつぼみはさくらとてはなれぬ
さくらも梅のつぼみとてはなれぬ

梅 實
花 實
由 誓
先 外
禮 物
東 漢

木 槿

日御久しき降つて入るる木槿哉
なうかたそと多し秋あそつと木槿身
木槿をゆきく花あるもくはか
咲くく槿のふく物も木槿
さきかみまきく槿てらるる木槿即
一甲はく木槿とこれいひきくを

九美 藤 左 波 而 蒼 乳

葛 花

葛の糸をかり月あつく山流うぬ
葉のうけはきぬし木槿花を
さき月のあもちきき葛の花

古 松 木 有

袴

花をきく袴いさぬぬ葉をきく

雲 袴 左

尾 料

尾料やききあるもきき尾
くそはききをききき尾

衣 和 柳

蔓 珠 花

蔓珠の花のりいんまや蔓珠花
生籠のくをきくく人西

一 蔓 葉

衣 石

衣石のりいんまや蔓珠花
生籠のくをきくく人西

風 石 平

あか
牛か
ほ
花

秋のふゆの憂の形遠をへずかき
と暮やふらふらとけとて秋の
ゆきかきの暮や相昔を嘆き
秋のふゆの憂の形遠をへずかき
と暮やふらふらとけとて秋の
ゆきかきの暮や相昔を嘆き

秋
一
柏
有
美
一
出
一
風
車
地

ふ
芙
割

秋のふゆの憂の形遠をへずかき
と暮やふらふらとけとて秋の
ゆきかきの暮や相昔を嘆き
秋のふゆの憂の形遠をへずかき
と暮やふらふらとけとて秋の
ゆきかきの暮や相昔を嘆き

秋
一
柏
有
美
一
出
一
風
車
地

秋 棠

我 香

秋のけい、棠の咲き、
秋の棠、
戸をきき、
秋の棠

どうめ
子
柳

秋のけい、
秋の棠、
秋の棠、
秋の棠

蓮
手
具

秋のけい、
秋の棠、
秋の棠、
秋の棠

卓
松
石

秋のけい、
秋の棠、
秋の棠、
秋の棠

而
知
警

秋のけい、
秋の棠、
秋の棠、
秋の棠

井
江
舎

秋のけい、
秋の棠、
秋の棠、
秋の棠

一
具
林

秋のけい、
秋の棠、
秋の棠、
秋の棠

杜
松
石

秋

藤のし

絲の瓜

瓢の

らの糸

芭の蕉

ひらひらとふらふらと
ふりゆく藤の葉を
見るとさきの付く
影もあきとぬや
お花やほそく
あつたあつた
そのむらり

刺
而
半
冬
月
夷
著
得
違
洞

十
ち
と
りの
葉
ち

禾
南
巴
松
杉

園
園
園

嵐
舟
曲

最
の

松
辰

花の籃

花を籠るの意は、人の心は花の如し

素行

花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠人

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠り

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

籠りて花を籠るは、籠りて花を籠るを

籠る

楸トリス 栲トリス

栲の葉は、花の如し

早池

栲の葉は、花の如し

栲

栲の葉は、花の如し

栲

栲の葉は、花の如し

栲

栲の葉は、花の如し

栲

栲の葉は、花の如し

栲

栲の葉は、花の如し

栲

栲の葉は、花の如し

栲

栲の葉は、花の如し

栲

栲の葉は、花の如し

栲

栲の葉は、花の如し

栲

栲の葉は、花の如し

栲

栲の葉は、花の如し

栲

醜 ^{ほろ}
おろ

鬼灯の月影をさす
あつたきありにあつた
醜の月影をさす

得花
夷則
林曹

風 ^{ほろ}
花 ^{ほろ}

及花のまをさす
影のまをさす

去藤
海香

たて
夢 ^{ほろ}
花 ^{ほろ}

かゝる夢の池の影
影のまをさす
一筋の影をさす

地像
雨録
夢帝
逸閑

以
称

花のまをさす
あつたきありにあつた
花のまをさす

大藤
夢帝
海香
月影
年秋

花 ^{ほろ}

あつたきありにあつた
花のまをさす

車地
去藤

之 松

枝刺るわらわもきこの丘のま
秋ふりの早もささくたぐりの茶
いつかあやめ堤の木のまの人の
一村の一の木のまの 寺の 園
笑うあやめをたぐりしきこのま
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの

古 松
五 松
石 松
風 松
葉 松
竹 松
草 松
直 松

花 尾

花標のふさお花のまのまのまの
あやめやまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの

大 松
旭 松
人 松
嶺 松
松 松
古 松

形... 尾花の... 千粒

藜

赤花... 由誓

葛

... 英山

葛

... 九毒

葛

... 木

葛

... 虚白

葛

... 相堂

葛

... 梅香

木 厚

木厚やおん人もちきり電堂り
木厚の木のけりり西りん

弓見
幻是

木 実

木実一もろく思くぬ木の重り
木のありく木の重りも木実
葉の戸や木の重り枝やりのふす
戸ふすこけりぬぬ木のしき

若水
青圃
丁知
漢系

木 花

花も木も花ももろく枝り奉
花も花も木ももろく花も花

丁知
一画

木 菌

木菌やもろく思くぬ木の重り
木のけり木の重りも木菌
木のけりも木の重りも木菌
木のけりも木の重りも木菌
木のけりも木の重りも木菌
木のけりも木の重りも木菌

若水
月夜
秋通
悠々
且松
亮伍

木 芽

木芽やもろく思くぬ木の重り
木のけり木の重りも木芽
木のけりも木の重りも木芽
木のけりも木の重りも木芽
木のけりも木の重りも木芽
木のけりも木の重りも木芽

若水
若水
戸頃
北亭
木酒

人

里

後、桑中、秋、冬、海、冬、十、月、
北、方、の、字、採、り、あ、り、下、を、造、り、
其、方、の、字、採、り、結、の、葉、火、の、結、是、を、
其、方、の、字、採、り、葉、あ、り、里、の、九、日、の、
其、方、の、字、採、り、葉、あ、り、和、の、字、

身 凡
飛 葉
李 席
×
復 物

熟

柿

里、子、中、の、秋、の、九、日、熟、柿、を、
葉、を、交、て、柿、俵、へ、上、る、熟、柿、を、

古 行
千 熟

木賊

本、賊、州、の、葉、の、一、丈、の、葉、の、
州、賊、州、の、葉、の、一、丈、の、葉、の、

呂 姜
千 熟

葉 蕪

葉、蕪、の、葉、の、一、丈、の、葉、の、
葉、蕪、の、葉、の、一、丈、の、葉、の、

英 山
精 山
可 結

葉 紅 草

か、く、近、く、秋、の、葉、の、一、丈、の、
か、く、近、く、秋、の、葉、の、一、丈、の、
か、く、近、く、秋、の、葉、の、一、丈、の、
か、く、近、く、秋、の、葉、の、一、丈、の、
か、く、近、く、秋、の、葉、の、一、丈、の、
か、く、近、く、秋、の、葉、の、一、丈、の、
か、く、近、く、秋、の、葉、の、一、丈、の、
か、く、近、く、秋、の、葉、の、一、丈、の、

海 洋
波 回
波 文
岳 風
弄 化
一 英

紅葉 (三)

當山の紅葉は山崎のりくも
くくくくくくくくくくくく
掃き去る紅葉の白くくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく

茶 仇
丈 子
茶 翠
里 女
世
大 夢
梅 趣
蕉 竹
生 尔
佳 年
一 具
山 崎

虫

くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく

茶 仇
丈 子
茶 翠
里 女
世
大 夢
梅 趣
蕉 竹
生 尔
佳 年
一 具
山 崎

秋

彈セ

秋はたる
螢

中野のやうな子に又ゆゑに桂の本
あやしくやうあな海身を一ツもの春
七和りよあはるるやうな浦ア

嵐 卯
菘 隼
乳

秋のまをその日らうしうりうり
谷のりやうしうしうしうしうしうしう
まのりやうしうしうしうしうしうしう
塚のりやうしうしうしうしうしうしう
地やうしうしうしうしうしうしうしう

阜 池
江 月
西 里
棠 功
東 漢

まのりやうしうしうしうしうしうしう
秋の秋をたるるるるるるるるるるる

嵐 外
布 山

秋
蝶

秋
蚊

秋
蠅

まのりやうしうしうしうしうしうしう
さやうしうしうしうしうしうしうしう
秋の秋をたるるるるるるるるるるる
秋の秋をたるるるるるるるるるるる

嵐 卯
沙 曉
海 堂
生 亦

秋の秋をたるるるるるるるるるるる
秋の秋をたるるるるるるるるるるる

嵐 卯
素 樺

何れもあはるるるるるるるるるる
るの年らるるるるるるるるるる
一しうしうしうしうしうしうしうしう

大 海
芝 石
蟹 水

虫の

蜻蛉

遠中れハ葉集一ツの秋のそく
く中へきぬくやう。秋のそく

山 鶯
梅 意

その色や 和入さる海の色あり
夕の赤く 紅く秋のそくありん
葉集の 吟も 秋のそくありん

茶 蔭
花 外
綿 刻

白うもを 考へる。とんちを
蜻蛉の後のもくまう。葉集のそ
く。夕の紅く。とんちを
蜻蛉をうへ。夕の紅く。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを

卓 池
夕 夕
相 堂
夕 哲

蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを

梅 意
末 漢

蜻蛉

蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを
蜻蛉のそく。とんちを

山 鶯
梅 意
末 漢
卓 池
夕 夕
相 堂
夕 哲

電馬

あか
んき

古来のちも電馬ありたなりは
今も今もそのまゝに電馬も
電馬も今もあつたなりは

其
夷則
車池

電のまゝに電馬ありたなりは
今も今もそのまゝに電馬も
電馬も今もあつたなりは

一
其
夷則
之
東
溪

電馬のまゝに電馬ありたなりは
今も今もそのまゝに電馬も
電馬も今もあつたなりは

溪
子

加
蠟
頭

い
蚕

かききりのまゝに電馬ありたなりは
今も今もそのまゝに電馬も
電馬も今もあつたなりは

沙
石
石
石

あつたなりは
今も今もそのまゝに電馬も
電馬も今もあつたなりは

風
得
子
由

鴉あひし

鴉を思はしむるは九めたふしき
人よりか又あふしき啼くはあふしき
影のうらハ余影くれくはあふしき
あふしきあふしきあふしきあふしき

秋を
真宜子
懐吉
黄山

鯛いし

日くししのいしやうねの月
日くししやうね代てくく倍
日くししやうねくくくくくく
日くししやうねを返くくくく
日くししやうねの志くくくく

鹿白
一噴
白桂
史子
由菊

世を思はしむるは九めたふしき

養礼

和あひし 鳥あひし

和鳥を思はしむるは九めたふしき
和鳥を思はしむるは九めたふしき
和鳥を思はしむるは九めたふしき
和鳥を思はしむるは九めたふしき
和鳥を思はしむるは九めたふしき

山外
一幽
凡阿
遲流
茶静
双居
由誓

雁かり

雁を思はしむるは九めたふしき
雁を思はしむるは九めたふしき
雁を思はしむるは九めたふしき
雁を思はしむるは九めたふしき
雁を思はしむるは九めたふしき

松を
戸菰
犬松
素槎

そくすけのすゝあま入やアタラシ
とくくと来ててやうにけうまききふ
るのつとまのしく聖の林本
向をるか居ハカきうやりくま
そくすゝあるあまのすゝや富の
りふやら志をくまききき居の
和居やけりるくたのききき
美の居るあまのけりるまきき
和居やまききくあまのけりる
和居やまききくあまのけりる

春雀子
丁知
茶山
阜池
茂推
太老
梅石
林曹
東漢
千輪

鷓鴣

柿のあやゆ終つるあまのけりる
あまのけりるあまのけりる
あまのけりるあまのけりる
あまのけりるあまのけりる
あまのけりるあまのけりる

波同
由雪
暹流
千輪

きん

精結やまききくあまのけりる
あまのけりるあまのけりる
あまのけりるあまのけりる
あまのけりるあまのけりる
あまのけりるあまのけりる

獲物
きん
茶山
阜池
茂推

啄木

きんあまのけりるあまのけりる
あまのけりるあまのけりる
あまのけりるあまのけりる
あまのけりるあまのけりる
あまのけりるあまのけりる

心阿
全

らつ

志

ふりあはる韓のさやけし露あり
露ふらふくれよあまき叶々くは
くまのやあまふらふくあく露
あまの露もあまのぬくつらん
入古の落あまの葉やあまのつら
あまの葉のさよさき露く事

大 山
湖 山
眉 山
風 眼
松 空
酒 了

あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露

沙 山
丁 山
長 山
富 山
佳 山

か
帯
焚

鳩
次

あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露

千 山
末 山
之 山

あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露

太 山
雲 山
小 山
由 山

あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露
あまのさやけし露をさよのあまの露

美 山
白 山

鹿^し
笛^{ふえ}

鳴りのきくふくむくふのるふ

みとく

鹿笛や川のふくむくふきき

葉月

吹くや風のふくむくふ

梅香

着るふくむくふしやふくふ

大梅

川をむくむくふくふ

舟池

鹿のきくふくふ

風朗

月あふくふくふ

山外

音あふくふくふ

乙彦

鹿笛や川をむくむくふ

立後

のののののののののの

連山

志あふくふくふ

雀連

鹿のきくふくふ

水松

鹿のきくふくふ

若水

鹿のきくふくふ

千巻

鹿のきくふくふ

卓池

鹿のきくふくふ

伯遠

鹿のきくふくふ

吳城

鹿のきくふくふ

林曹

鹿のきくふくふ

露谷

鹿のきくふくふ

露谷

鹿のきくふくふ

露谷

鹿のきくふくふ

露谷

九
月
盡

又あふくふくふ

卓池

鹿のきくふくふ

伯遠

鹿のきくふくふ

吳城

鹿のきくふくふ

林曹

鹿のきくふくふ

露谷

行秋

秋の行 くさく

川舟の向ふ月しぬさくゆく
ゆく秋を移れゆくたの春
以秋中へ切さるる叢祠の戸
ゆく秋中へ切さるる叢祠の戸
明の空をゆくゆく秋の影を

ゆく秋のちのき き
ゆく秋のちのき き

之 一 助 波 逸 素 素 順

秋訓

秋のゆくゆく くさく
大文字やゆく くさく
さく くさく
とさく くさく
さく くさく
秋のゆくゆく くさく
大文字やゆく くさく
さく くさく
とさく くさく
さく くさく

一 護 蒼 卓 漢 出 早 大

秋の聲は初めうらうらと遠くの
木々の梢に吹く風の音あり
結露の草の葉に露の音あり
其の音は西の空に響く
もくもくたる音あり
くもくたる音あり
秋の聲は初めうらうらと遠くの
木々の梢に吹く風の音あり
結露の草の葉に露の音あり
其の音は西の空に響く
もくもくたる音あり
くもくたる音あり

秋風
木葉
山嵐
大木
音木
大木
音木
大木
音木
大木
音木

石坂の中何處を歩くと秋の
庭を歩くと秋の庭を歩くと
空を歩くと秋の空を歩くと
秋の空を歩くと秋の空を歩くと
秋の空を歩くと秋の空を歩くと
秋の空を歩くと秋の空を歩くと
秋の空を歩くと秋の空を歩くと
秋の空を歩くと秋の空を歩くと
秋の空を歩くと秋の空を歩くと
秋の空を歩くと秋の空を歩くと
秋の空を歩くと秋の空を歩くと

秋風
木葉
山嵐
大木
音木
大木
音木
大木
音木
大木
音木

庭々のひそかにひそかに葉を
 那空の如く園寺のくまの椽の先
 筆を筆に我の具はよむの道
 冬にや十五夜にの一夜味
 終にや和雷よあつる春の
 ふりうつらあはれは物事の秋
 夕景のよきやあつるおのれ
 閑くも春の叫や松葉の

斗南
 庭
 之椽
 丁
 赤
 一具
 茅
 千

今人五百題拾句集

冬之部

ハ 雲 東 溟
 浩 麟 千 轄
 校 輯

初雪や川流にたる葛夏の星
 初雪やあはれはくまのくま
 初雪や初雪をわけて湖のま
 初雪や人のくまのくまのくま
 初雪の先初雪をわけてくまのくま
 山のくまのくまのくまのくま
 初雪や初雪のくまのくまのくま
 初雪のくまのくまのくまのくま

後 物
 風 韻
 一 角
 松 古
 葛 夏
 山 題
 初 雪
 由 誓

初 雪

黄山 洞天 粗文 史手 大鵬 波回 太珉 逸洞 未粟 一具 千輅

紀ゆ

黄山 洞天 粗文 史手 大鵬 波回 太珉 逸洞 未粟 一具 千輅

黄山 洞天 粗文 史手 大鵬 波回 太珉 逸洞 未粟 一具 千輅

けいたい 馬むそく けいその馬
 ありや きのりも 星一ツ
 ちその 馬ハ 路のそん 終り
 路をのり みる ゆきを かんれん
 雪ふく ぬのそん けいその馬
 一りの ちその馬 ありや きのり
 果 きのりを 包て きのり きのり
 谷津く ちその馬 けいその馬
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり

山外 堪見 眉山 雲中 氷松 對山 才風 如ら 五浪 素標 方打

月代や きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり
 ちその馬 ありや きのり きのり

依文 片外 丁生 月庭 史干 由曹 車池 春木 平山 助宣 溪系 水作

そらつむしやや藤あふ藤松
二冬掃く終に掃く一冬の雪
大さや中さハハなまき 朝
押さるるやにまらるるやのま
吹すも風呂をまやまの上
板のまらるるやうてまらるるや神のま
舟のまらるるまのまらるるや
まの風呂まらるるや神のま
一まらるるまらるるや
あつむしやや藤あふ藤松
まらるるのまらるるや
まらるるのまらるるや

双鳥 清民 舟白 東田 松竹 雲古 祇白 茶蘇 祖々 風朝 東順 羊倉 千松

ふ 聖 吹

志 紀

少なまらるるまらるるや
廻板のまらるるや
まの家のまらるるや
まらるるのまらるるや
まらるるのまらるるや
まらるるのまらるるや
まらるるのまらるるや
まらるるのまらるるや

速迷 助宣 丁太 大松 舟白 相逆 善蘇 伊家

初時雨

陰のけの雲よりくもりおちて
あつた火の細いあかしの
りのをちりまきし斗をさ
おのちりしとぬれぬおのち
おのちりしとぬれぬおのち
さかかきし川のゆきか
三月月もあるおのち
陰のけの雲よりくもり
おのちりしとぬれぬおのち
おのちりしとぬれぬおのち

托 儀 蒼 乳 風 阴 素 標 杜 警 杜 有 梅 宅 影 年 由 誓 来 月 梅 塢

一會 撰

陰のけの雲よりくもりおちて
あつた火の細いあかしの
りのをちりまきし斗をさ
おのちりしとぬれぬおのち
おのちりしとぬれぬおのち
さかかきし川のゆきか
三月月もあるおのち
陰のけの雲よりくもり
おのちりしとぬれぬおのち
おのちりしとぬれぬおのち

来 月 梅 塢 由 誓 影 年 杜 有 杜 警 杜 警 素 標 風 阴 素 標 杜 有 梅 宅 影 年 由 誓 来 月 梅 塢

とらふ果を... 橘人の忠... 志く... 酒...

大 奥 牙 津 松 鳥 彦 海 志 上 後

橘人の忠... 志く... 酒...

大 奥 牙 津 松 鳥 彦 海 志 上 後

霜三

細草の裾をふくむくも如き
あまき井や水辺の如くも
たゞしく後陣の日のさかぬを
とまひけしけしきや霜も
はるるもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくも

即ち
于五
仁月
霜
霜
霜

霰二

身中の氷の意なきや霜も
葉枯くしのいよくもくも
くもくもくもくもくもくも
極の日は水もくもくもくも
くもくもくもくもくもくも

霜
霜
霜
霜
霜

霜三

もくもくもくもくもくもくも
霜川の空もくもくもくもくも
所もくもくもくもくもくも
移りもくもくもくもくもくも
霜もくもくもくもくもくも
霜もくもくもくもくもくも
霜もくもくもくもくもくも
霜もくもくもくもくもくも
霜もくもくもくもくもくも
霜もくもくもくもくもくも

霜
霜
霜
霜
霜
霜
霜
霜
霜
霜

金葉

氷

柱

たけけりたけけりたけけりたけけり
たけけりたけけりたけけりたけけり
たけけりたけけりたけけりたけけり
たけけりたけけりたけけりたけけり
たけけりたけけりたけけりたけけり
たけけりたけけりたけけりたけけり
たけけりたけけりたけけりたけけり
たけけりたけけりたけけりたけけり

公等

先外

由香

蕉山

禊

無

月

十月の夜は静かである
十月の夜は静かである
十月の夜は静かである
十月の夜は静かである
十月の夜は静かである
十月の夜は静かである
十月の夜は静かである
十月の夜は静かである

曾見

洞天

休是

草枝

善礼

赤信

千枝

小春

風網

林曹

大橋

悠

割月

九日の後ハツリおれいふをうり
傳のりつりつぎしおえらふか
腕中を掃除のしつこくおき
新色の粧えりらるるおける
海辺を休むけあきおき
藪ふみのお葉掃きしつこく
二三りの所計きつりおえらふ

斗は送
およあ
りし昔
古是
了
二丘
りあ

志
え
と

初
冬

人の有りつりつりおれいふをうり
用もちきおれいふのふのきさ
よふ月の無夜つりおれいふ
おれいふえおれいふおれいふ
おれいふをりおれいふおれいふ
おれいふ人おれいふおれいふ
おれいふおれいふおれいふ
おれいふおれいふおれいふ

おれいふ
おれいふ
おれいふ
おれいふ
おれいふ
おれいふ
おれいふ
おれいふ
おれいふ
おれいふ

冬 五

神送

美しき有無の冬も那
梅の香人より先は冬もさう
糸下とありし冬ものつゆ
小福とさるや冬も海休
年せりらんきりま冬も
とく表へお手おくる冬も
もくし餅をまいて冬も
風香のとどろく冬も
伊の海おとす冬も
おまふく風とく冬も

大梅
此美
茶新
想血
蓬深
意新
破類
護物
簀履
土信

神歌

田の井の柳一木や井のる
りしとく籠の女や井の
籠の跡を女よゆらう結の守

西阿
高少
多とめ

神歌

井也ぬるぬ人もあうら
る辰のつゆう別あり井た

逸洞
葉新

夷講

空宮の朝をのそら柳地子
加らら石も中持のそら夷
夜子あて能洲もきき海
け挽り漁つるるるいそ

沙島
一青
岸外
儲平

子こ換か心こころ

換心けい 幼子あけし 夫 篠
と来の今こし けいさるあ 和 夷 篠
明の上き 船のそんし 和 夷 うう
世う 終れ 心まし 篠 心 夷 篠

換心 幼子 夫 篠
我 夷 篠
年 池
大 換

吹草 奈

吹草奈 吹草奈の 吹草奈の 吹草奈の
吹草奈の 吹草奈の 吹草奈の 吹草奈の
吹草奈の 吹草奈の 吹草奈の 吹草奈の

吹草 奈
吹草 奈
吹草 奈
吹草 奈

神加 乐

神加乐 神加乐の 神加乐の 神加乐の
神加乐の 神加乐の 神加乐の 神加乐の
神加乐の 神加乐の 神加乐の 神加乐の

神加 乐
神加 乐
神加 乐
神加 乐

里 心

里心 里心の 里心の 里心の
里心の 里心の 里心の 里心の
里心の 里心の 里心の 里心の

里心 里
里心 里
里心 里
里心 里

十 叔

十叔 十叔の 十叔の 十叔の
十叔の 十叔の 十叔の 十叔の
十叔の 十叔の 十叔の 十叔の

十叔 十
十叔 十
十叔 十
十叔 十

深き水の湯を控へてゆく水は
舞かき流つてゆく十敷の籠
仮おろし思ひたぐぬ十敷の籠
一むしあるや十敷の志平は掃
ゆきまきし十敷の籠とわのし
お姫も人ともめたの十敷の籠

田原
弄化
詩並
山依
一奥
花儀

たねま
連ま
忌

連うまやうき流る掃を籠とせし
伴幣儀の鳥連うまよまきうま
たうすたや難の中端たのまき

沙路
器推
李贈

命
講

常よりいふ事わらうとあり
春うたをく流すのりぬ清命儀
清なる儀やうまうけり此處より
某方おと流すね回分やは流
清なる儀や某事物と流りき

南枝
由雪
素行
車池
十敷

忌
を

本名もいふ事わらうとあり
たきまきと名物流の供養も月明り
くふの流流舞のりまきや此處
名も名物いふ事わらうとあり
十月やうまおまの流もん流
時よ名物流のりまきとあり

春乳
一具
遺物
名了
香山
千粒

佛

取

衆子角... 日の暮り... 行の... 舟の... 杖...

由普 祖郷 三岳 得並 東澳

佛名

柳の... 末の...

遺物

や... 佛...

而后 山骨

鉢

大

... 西... 鉢...

山誓 名よめ 系信 千教

念

... 鉢... 史...

鶴林 産叟 尊阿 史千

たいり
天不
係

おち
葉落

木二
葉結

娘いりの通し、葉落き言ふ
其のまは河豚のなまれを言律
ゆふりてわし、賦をうき言ふ

凡夫よあまた中より、大間係
星よりの、おまら、や大間係

柿色を、淋し、きく、おまら、
二りあやう、一、おまら、

湧き温泉水よ、つきて、うき、
ふ、ハ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

うき、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ひ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

掃出、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
汲、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

おまら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
散、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

うき、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
葉、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

二枝 一松 復物 逸人 大松 其山 而後 水狐 大松 舟池 一具 蚌水 剛翠 于瓶 松言 吹塔 万積 海是 外

冬本立
詩

吹よこしをらるる木の葉を
掃念子ぬく程ある木のさくら
うろくきり御のたつ木のさくら
さきしぬあきく掃念木のさくら
葉をちよきをいふある木のさくら

餅すこ目くこれいふ味中
垣結つこいふ併してある木のさくら
谷川のさくらをいふけてある木のさくら
さくられい日のさくらをいふ木のさくら
さくらさくら吹くさくらをいふ木のさくら

桃
木
山
尾
礼
信

速
山
竹
声
左

風
二部
七

風中 若くともゆきむさし
あきし中相織あつこ曲る角
木敷風のさくらをいふ木のさくら
風中をいふこいふ木のさくら
あきし中相織あつこ曲る角
木敷風中一かきたす木のさくら
風中 掃念子もあき大井川
木のさくらをいふ木のさくら
木のさくらをいふ木のさくら
風のりり掃念子もあき大井川
川きり風をいふ木のさくら

由
深
出
美
山
野
山
木
祖
文

山柳魚
千枝

枯柳

枯柳
西非
集

散

紅葉

散
風柳
南枝

柳

木

柳
木
大柳
山外
風柳

枇把の義

枇把の義ありしは古きもぬるも
ついでに物なるもしてほもくも

ひこきもよ古めきもくも枇把の義

多るもくもくも人も有 枇把の義

そむくもひひくも生も有いも有

漆汁の作も枇把や枇把の義

りそくも甲の甲もりも有ひも有

枇把の義や枇把の中も有の義も有

よみくもややも有たも有いも有

山も有も有の義も有ひも有

山も有も有の義も有ひも有

山も有も有の義も有ひも有

山も有も有の義も有ひも有

山も有も有の義も有ひも有

山も有も有の義も有ひも有

山も有も有の義も有ひも有

山も有も有の義も有ひも有

山も有も有の義も有ひも有

山も有も有の義も有ひも有

山も有も有の義も有ひも有

山花

玉枝

千枝

山誓

漆

左老

相堂

多事

一具

枇把

大枝

而右

丁知

卓丈

一具

兩堂

千枝

千枝

千枝

千枝

ハッ
手

きをきりる月や分よのむの上
枯葉をふれい咲くうらな自
あふる深のふくむかすも暖
まよふ

冬
乃
採

冬の花やさなぬふりし生の角
隣りよ木ハ枝なきもゆふよ冬の花
な枝あんとせ葉のゆや冬の花
せんさくもきたはし枝さく冬の花
あまみのあハ月七かづらん冬の花
冬を咲てまふしよもあな花を採
真所の素ハさけり冬の花
細くもあくあもくとも冬の花
文花
ちち
子
一
葉
之
花
石

冬
つ
支

冬の花やさなぬふりし生の角
隣りよ木ハ枝なきもゆふよ冬の花
な枝あんとせ葉のゆや冬の花
せんさくもきたはし枝さく冬の花
あまみのあハ月七かづらん冬の花
冬を咲てまふしよもあな花を採
真所の素ハさけり冬の花
細くもあくあもくとも冬の花
文花
ちち
子
一
葉
之
花
石

冬
丹
壯

冬の花やさなぬふりし生の角
隣りよ木ハ枝なきもゆふよ冬の花
な枝あんとせ葉のゆや冬の花
せんさくもきたはし枝さく冬の花
あまみのあハ月七かづらん冬の花
冬を咲てまふしよもあな花を採
真所の素ハさけり冬の花
細くもあくあもくとも冬の花
文花
ちち
子
一
葉
之
花
石

人生心

水仙や花のあまの月の子
まのまのや舟のつらき葉の曲り
水仙や花のあまの月の子
世のつれづれは水仙のまのまの
水仙や花のあまの月の子
花のつれづれは水仙のまのまの
水仙や花のあまの月の子
まのまのや舟のつらき葉の曲り
水仙や花のあまの月の子
まのまのや舟のつらき葉の曲り

遠家
唐
由
丁
山
山
茶
斗
東
千

花

かろく... 花
花のつれづれは水仙のまのまの
水仙や花のあまの月の子
まのまのや舟のつらき葉の曲り
水仙や花のあまの月の子
世のつれづれは水仙のまのまの
水仙や花のあまの月の子
花のつれづれは水仙のまのまの
水仙や花のあまの月の子
まのまのや舟のつらき葉の曲り
水仙や花のあまの月の子
まのまのや舟のつらき葉の曲り

風
悠
島
飯
長
曹
山
外
千
卓
地

枯存

千もり 長ふんてりれま
あつて 極のひるまをちか枯き

藤文 悠々

茶花

茶の花の折や列子香を流し
茶の花のわらあふお土偶修り
茶の室の一枝くさるる花解
茶島やふの笑のよ人もあは
あつてぬやうらまへ茶の香

由誓 酒大 林曹 若非 万頼

茶の花やあつて流るる花のぬくも
らんたのくさ笑ふもあつてあ
茶の花やあつて流るる花のぬくも
らんたのくさ笑ふもあつてあ

茶乳 由誓 辰推

寒菊

寒菊のあつて流るる花のぬくも
らんたのくさ笑ふもあつてあ
寒菊のあつて流るる花のぬくも
らんたのくさ笑ふもあつてあ

寒菊 知出 筆力 千頼

石の花

石の花のあつて流るる花のぬくも
らんたのくさ笑ふもあつてあ
石の花のあつて流るる花のぬくも
らんたのくさ笑ふもあつてあ

石花 筆力 千頼

枯蓮かれん

枯して風もかからず蓮の葉
枯蓮を懐かしくも物草の類

由 菊
杜

若わかれ

枯草やまのちのちれは
うれやや悔れなるもの
吹くくはあつきの枯葉の類

風 湖
花 外
阜 池

冬ふゆ
の 是

冬枯やまのちのちれは
冬枯や木のちのちのちれは

一 山
一 映

草くさ
枯

草枯もまのちのちれは
草枯もまのちのちれは
草枯もまのちのちれは

大 勝
草 野
一 具
十 秋

冬ふゆ
山

冬山もまのちのちれは
冬山もまのちのちれは
冬山もまのちのちれは

白 紀
万 頃

枯かれ
整ととの

枯れもまのちのちれは
枯れもまのちのちれは
枯れもまのちのちれは

由 誓
蒼 地
悠 々
出 山

春のつとまきくはあはれ松竹を
さくもつと根のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは

風朗
古家
可大
月庭
逸閑
松軒
阜池
水松
茶山
丁志
系漢
千根

橋野の

大根引

くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは

一
墨
更

はあはれ松竹をさくもつと根の
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは
くはくは池のつとまきくは

松竹
得蓋
而右
重馬
故回
斗延
阜身
茶山

折るのなき敷くよりして大根川
ぬくきりや敷敷くすして大根川
千粒

蕎麦そば
刈

そは刈ハ一日作りあうり
おとろ刈や滝てふゆふ赤とん
山外
奉踏

干ひ
菜な

給一菜のりよあ一俵の好
体一とや物種老のつ干菜
東もまるとかまて多く物有菜
干菜汁二あつて干菜の好
東漢
摘山

葱ねぎ

上葱よりまらうりり魚の棚
ひりりハ二反セりり葱と
その毛も採へてある相原を
喰ふりもえんてあるい葱
多也中ひりり色なり葱と
青可
千粒

麦あわ

麦苗中一人日暮ふ山の極
芥虫の防ふなりと麦を有
麦苗よりそり給ふや小給汁
麦苗や西夕をうけ給ふ
水角
沙鷄
千粒

蔣しょう

麦すくとらゆり山の細さ

鷓鴣

鷓鴣

蔓花の赤花一枝のうらまへに
鷓鴣の鳴けしやうのうらまへに
そけいの子孫のうらまへに
も凡そおりのけしやうのうらまへに
お経のりやうのうらまへに
りやうのうらまへに
るるを歌ふやうのうらまへに
人別れのうらまへに
くはまのうらまへに
こゝろのうらまへに
志んやうのうらまへに

蔓花
風鳴
一枝
一具
梅香
首
美山
朱芳
山
馬

子

子

甲のうらまへに
雲のうらまへに
枝のうらまへに
志んやうのうらまへに
首のうらまへに
美山のうらまへに
朱芳のうらまへに
山のうらまへに
馬のうらまへに

一枝
一具
梅香
首
美山
朱芳
山
馬

いふふおもしろく...
あの子...
一解...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

茂花
水竹
逸閑
抱儀
斗来
舟深
千板
一具
扶香

水鳥

か
も

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

由菊
風雨
西庭
美石

鷺お 鷺お

沖の木の末のさしきや野の草
きくくさきいさくや野の草。野
野ありやねのさしきや野の草。
うたをきききききき野の草とさしき
野の草のさしききききき野の草
ぬりくききききききき野の草
はのさしきききききき野の草

水 木 沙 灰 依 一 鹿 相 得 風
池 末 路 白 同 只 鹿 相 得 風

浮うき 浮うき 鳥

舟のさしききききき野の池の末
きききききききき野の池の末
おきききききききき野の池の末
おきききききききき野の池の末
おきききききききき野の池の末
おきききききききき野の池の末
おきききききききき野の池の末
おきききききききき野の池の末
おきききききききき野の池の末
おきききききききき野の池の末

水 池 末 路 白 同 只 鹿 相 得 風
池 末 路 白 同 只 鹿 相 得 風

木く 兔う

冬ふゆ 魁かい

ふゆくさあやうこたあ

木

木兔の馬や毎晩おる木

年地

木兔あつち中ま静かあらや

露東

あつちとつてえや木兔の歌

白起

木兔の馬や月さうたう時さ

博天

木のうけさのうけさやアの勢

仙先

その魁進やうさうしりし

祖

まよりしと静かの徳業や虎の塊

一函

ま月をかかやうしりし

史例

擲りまぬくまやその魁

匡一や虎あり木を新の身

魁

木の葉吹凡の寒や虎の身

カ

虎のうけさや運さう虎の力

長

虎のうけさや運さう虎の力

史

虎のうけさや運さう虎の力

史

虎のうけさや運さう虎の力

史

虎のうけさや運さう虎の力

史

虎のうけさや運さう虎の力

史

虎のうけさや運さう虎の力

史

鷹たか 野の

大

の

匡一や虎あり木を新の身

魁

木の葉吹凡の寒や虎の身

カ

虎のうけさや運さう虎の力

長

虎のうけさや運さう虎の力

史

虎のうけさや運さう虎の力

史

虎のうけさや運さう虎の力

史

虎のうけさや運さう虎の力

史

虎のうけさや運さう虎の力

史

虎のうけさや運さう虎の力

史

原に犬をよけて海軍の里の犬

惟平

さくさくうらうらとけしぬくぬく

魚

さうさうとけしぬくぬく

風

えんえんさうさうとけしぬくぬく

藤

けしきうてきさうさうとけしぬくぬく

青

たあきうてきさうさうとけしぬくぬく

五

ぬきうてきさうさうとけしぬくぬく

二

久
苦
鳥

けしきうてきさうさうとけしぬくぬく
けしきうてきさうさうとけしぬくぬく
けしきうてきさうさうとけしぬくぬく

五
其
林

夜
興
列

あつとつとやうさうさうとけしぬくぬく
あつとつとやうさうさうとけしぬくぬく

一
海
端

不
逐
鳥

あつとつとやうさうさうとけしぬくぬく
あつとつとやうさうさうとけしぬくぬく

茶
行
遠
洲

鯨
突

あつとつとやうさうさうとけしぬくぬく
あつとつとやうさうさうとけしぬくぬく

長
三

細
代
守

あつとつとやうさうさうとけしぬくぬく
あつとつとやうさうさうとけしぬくぬく

由
菊
品
古

霖

くも下戸の何所にもあつた
あつた雪がたおろしを
岩の中を流るる水
川の中を流るる水
雪利てあつた

雪子
山骨
一具
千粒

霖をよめる
雪の掉のとも

一具
大粒

雪のあつた
雪のあつた

雪子
山骨

生

海

切はもろく
雪のあつた
雪のあつた
雪のあつた

雪子
山骨
一具
千粒

権

坂の雪
雪のあつた

雪子
山骨

河

雪のあつた
雪のあつた

雪子
山骨

子あてしん年次をさうの友
あつたあて掃てあんま和河縁の福
河縁といふあて方縁をさええん
ふくあてさうのあて別れさう
あつらへうあてあて河縁け

河池
阜池
松竹
風月
由菊

鞍ん
不ふ
躑し

鞍縁の料紙をさうを
鞍縁の中世あてのあてをさう

後物
新林

乾ん
鞋せ

乾鞋をさうのあてをさう
乾鞋の中月とあてはあて

逸脚
可射

之の
喰く

喰をさうのあてをさう
喰をさうのあてをさう
喰をさうのあてをさう
喰をさうのあてをさう
喰をさうのあてをさう

徐全
夜照
應知
大板
東漢

水みづ
むむ
ささ

水むさをさうのあてをさう
水むさをさうのあてをさう
水むさをさうのあてをさう
水むさをさうのあてをさう
水むさをさうのあてをさう

鳳翔
沙鷗
岱年
一具
呂川
碩額

庭の雪のをりし一草のひらけつ
碎きあかむ戸は吐きぬきし
月うぬくし雪のこまきし
帯解しゆはの ぬすつとむさき
膠の心をまきし
梅打りし
雪の干ぬけ物とも
日のさしし一草

岳風 助宣 其山 比古 卓池 彫石 草命 梅宅 千秋 由誓 蒼乳

冬 籠

折るしは籠もく
冬あつと
鏡の雪
梅のつゆ
葉の
白
雪
雨
千
卓
松

了 白 具 一 岸 茂 松 氷 雨 千 卓 松 付

冬 籠

あつと
松

卓池 松付

蒲團ふすま

糸を糸糸に織る物さふくぬるり
糸ありりふまはひり糸ふま
ふまはひり糸のゆめや糸の
ふまはひり糸のゆめや糸の
ふまはひり糸のゆめや糸の

史千
史
史
史
史
史
史
史
史
史

紙衣かみ

頭かみ

あつちのすてまの紙衣
肩のすてまの紙衣
袖のすてまの紙衣
背のすてまの紙衣
胸のすてまの紙衣
腰のすてまの紙衣
足のすてまの紙衣
頭のすてまの紙衣

葦札
霞
紙
千
紙
白
千
紙
白
千
紙
白

袋たい星せい

煙えん巨こ

結むすちくりつてみるはきん共

道所

星せい袋たいのなままき既中ちゆうの身

多汗

星せい袋たいのなままき既中ちゆうの身

石見

星せい袋たいのなままき既中ちゆうの身

石見

西にしのなままき既中ちゆうの身

一具

二にのなままき既中ちゆうの身

卓池

三さんのなままき既中ちゆうの身

石見

四しのなままき既中ちゆうの身

石見

五ごのなままき既中ちゆうの身

石見

六ろくのなままき既中ちゆうの身

石見

七しちのなままき既中ちゆうの身

石見

八はちのなままき既中ちゆうの身

石見

九くのなままき既中ちゆうの身

石見

十じゅうのなままき既中ちゆうの身

石見

十一じゅういちのなままき既中ちゆうの身

石見

十二じゅうにのなままき既中ちゆうの身

石見

十三じゅうさんのなままき既中ちゆうの身

石見

十四じゅうしのなままき既中ちゆうの身

石見

火ひ星せい

押おしちちををくくたたちちししききももははきき高たか

石見

押おしちちををくくたたちちししききももははきき高たか

石見

押おしちちををくくたたちちししききももははきき高たか

石見

押おしちちををくくたたちちししききももははきき高たか

石見

押おしちちををくくたたちちししききももははきき高たか

石見

押おしちちををくくたたちちししききももははきき高たか

石見

火きけ

い
ち

ひきけりしりてきききききききききき
きききききききききききききききき
きききききききききききききききき
きききききききききききききききき
きききききききききききききききき
きききききききききききききききき

ききき
ききき
ききき
ききき
ききき
ききき
ききき
ききき

きききききききききききききききき
きききききききききききききききき
きききききききききききききききき
きききききききききききききききき
きききききききききききききききき
きききききききききききききききき

ききき
ききき
ききき
ききき
ききき
ききき
ききき
ききき

湯
婆

冬
構

かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき

かきか
かきか
かきか
かきか
かきか
かきか
かきか
かきか

かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかき

かきか
かきか
かきか
かきか
かきか
かきか
かきか
かきか

かろ
冠

まののよよんをうまねをききう
かひききぬいよひよまきしんそり入
えいよまねやとてまのまねぬまの純
かのもまね長州のまのまねまね

一具
か
まね
ね
ゆ

口
切

口切やまねのうらまねの
口切やまねのうらまねの
口切やまねのうらまねの

一具
口
切

けん
楯

口のまねのまねのまねのまねの
まねのまねのまねのまねの
まねのまねのまねのまねの

一具
楯
二

髪置

髪置のまねのまねのまねのまねの
まねのまねのまねのまねの
まねのまねのまねのまねの

一具
髪
置

袴
看

袴のまねのまねのまねのまねの
まねのまねのまねのまねの
まねのまねのまねのまねの

一具
袴
看

凍

凍のまねのまねのまねのまねの
まねのまねのまねのまねの
まねのまねのまねのまねの

一具
凍
水

氷

氷の厚もくさくさ 氷の薄もくさくさ
氷の白もくさくさ 氷の黒もくさくさ
氷の赤もくさくさ 氷の青もくさくさ
氷の黄もくさくさ 氷の紫もくさくさ
氷の白もくさくさ 氷の黒もくさくさ
氷の赤もくさくさ 氷の青もくさくさ
氷の黄もくさくさ 氷の紫もくさくさ

氷の厚もくさくさ 氷の薄もくさくさ
氷の白もくさくさ 氷の黒もくさくさ
氷の赤もくさくさ 氷の青もくさくさ
氷の黄もくさくさ 氷の紫もくさくさ

雪

河

雪の白もくさくさ 雪の黒もくさくさ
雪の赤もくさくさ 雪の青もくさくさ
雪の黄もくさくさ 雪の紫もくさくさ
雪の白もくさくさ 雪の黒もくさくさ
雪の赤もくさくさ 雪の青もくさくさ
雪の黄もくさくさ 雪の紫もくさくさ

雪の白もくさくさ 雪の黒もくさくさ
雪の赤もくさくさ 雪の青もくさくさ
雪の黄もくさくさ 雪の紫もくさくさ

綱 夏

海の底にひたひたのあしき網を引け
網を引くはひたひたのあしき網を引け
月を引くはひたひたのあしき網を引け
舟を引くはひたひたのあしき網を引け
舟を引くはひたひたのあしき網を引け
舟を引くはひたひたのあしき網を引け
舟を引くはひたひたのあしき網を引け
舟を引くはひたひたのあしき網を引け
舟を引くはひたひたのあしき網を引け
舟を引くはひたひたのあしき網を引け

草花 枝玉 清民 清安 年舟 梅宝 貞徳 石外 一奥

楯 大

友

接してひたひたのあしき網を引け
接してひたひたのあしき網を引け
接してひたひたのあしき網を引け
接してひたひたのあしき網を引け
接してひたひたのあしき網を引け
接してひたひたのあしき網を引け
接してひたひたのあしき網を引け
接してひたひたのあしき網を引け
接してひたひたのあしき網を引け
接してひたひたのあしき網を引け

浦田 黄山 由譽 木本 風朗 松平 辰雅 密雲 都井

炭

くさくさ煙や火のふとる炭山外
炭・山や土よりの時中一日出 十粒

おきたくておねえとの炭火車 卓池

らうとけと煤の出し炭俵 炭了

く・炭や薪を炭の炭の炭に 梅子

樽炭や砕く炭の炭の炭に 古園

炭の炭の炭の炭の炭の炭に 青可

炭の炭の炭の炭の炭の炭に 梅五

炭の炭の炭の炭の炭の炭に 梅子

炭の炭の炭の炭の炭の炭に 一真

炭の炭の炭の炭の炭の炭に 千粒

冬乃月

あかりの冬乃月 一青

けりけり冬乃月 卓池

梅の冬乃月 林雪

冬乃月 名推

冬乃月 高き

冬乃月 風明

冬乃月 焙子

冬乃月 赤玉

冬乃月 千粒

冬乃月 梅子

寒月

まじりぬれぬくもてぬるる屋の下
まじりぬれぬくもてぬるる屋の門
まじりぬれぬくもてぬるる道
まじりぬれぬくもてぬるる

雪
風
霜
雪
雪
雪

寒入

枯葉のまじりぬれぬくもてぬるる入
枯葉のまじりぬれぬくもてぬるる入
風をぬれぬくもてぬるる入
風をぬれぬくもてぬるる入

年
山
雪
雪

寒の
うち

寒の江戸のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の江戸のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の江戸のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の江戸のまじりぬれぬくもてぬるる

城
林

寒
敵

寒の敵のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の敵のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の敵のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の敵のまじりぬれぬくもてぬるる

屋
白
力
出
寒
敵

寒
拵
離

寒の拵のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の拵のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の拵のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の拵のまじりぬれぬくもてぬるる

百
寒
拵

寒
入

寒の入のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の入のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の入のまじりぬれぬくもてぬるる
寒の入のまじりぬれぬくもてぬるる

一
寒
入

聯

晴きけしきぬり遊毎の田の春
以、秋をきくも思ひぬ小池
心人きくしの湯水保しあうらう

惟車
支昇
小簾

あかり
賦

あかりや小とりついであま
終るもさきく吹く、溪路

二丘
終里

冬の
日

あいのりもすいあまのぬり
さきか、所をくさか冬を
杉木こさせし晴も冬口

風館
阜池
山外

冬
夜

あいの夜や針きめてけさる
あいの夜や浮架うらうつる

極意
夜如

冬

田

くおのくーんハ産き冬田の
らあうまはるあうく冬田
山岸の産咲あむ冬田

知岳
素樸
小柯

冬
節
季
候

あいの夜や影のほや面
まきたあかもるうけぬ所の
あいの夜やま川まあまを
まあいの夜やま川まあまを
あいの夜やま川まあまを

由誓
一具
子河
史子
玄子

簾掛や門田の石の列一季 一 具

七
餅
七
進

素人より為創りまじや海邊
まよきや海一より海一入
水 青
樹 麻

七
配
七

名能く海一しまきと海一を
針匠志の生多味しや衣能く
一 具
海一と身や影一衣 配
千 秋
千 秋

鬼ハ外いふくこれハいれ
海一をまきや山家の鬼中
千 奥
千 奥

七
節
七

節ありし年と海一柳のま
豆まき海一や往來しこれら
得 在
名 馬

七
厄
七
拂

厄もい拂てわたり又
碎しまきや打撃たり厄拂
一 具
慈 光

七
歳
七
市

と一の市と一掃もくけま
茶もかかきと一掃と一の市
一掃火してゆきと一掃乃市
掃うと人をまねくや 年の市
天 朗
由 誓
表 欠
途 途

血体のちるはる多物としの市
いそかきこ舟をまぬじや年の市

一年池
一具

年
本
焦

存分上芥ききせり年本契
年本様てあし置きり音送

一吟霞
一省

年
忌

通るはるえぬものふみの音
とくそふたは海くも文一り
ふ味きんも喫り下も年忘
山里やふ休きもてせしり
海老可らふ、性や年忌

風雨
省者
白ふ
木本
黄山

行
年

見
四山

以年やうけりき世れの変の形
ゆくゆく中又ねるもまきさる
以年の縁よりりや後 康
ゆくゆく中後の上の梅の花
ゆくゆくやふふふふふの榮
ゆくゆく中無探りり 義の如く
以年中の心を形むの林の中
書き終りてあえんを中しむふ
茶の室よりゆくやあんの居り
田毎のらおむとてあらんの中

悠年
一具
四風
大船
所為
改回
高海
後極
省者
大船

待^ま去^き

大^お去^きに^にく^く待^ま去^きの^の白^{はく}お^おう^うの
左^{ひだり}待^ま去^きの^の白^{はく}お^おう^うの
右^{みぎ}待^ま去^きの^の白^{はく}お^おう^うの
左^{ひだり}待^ま去^きの^の白^{はく}お^おう^うの
右^{みぎ}待^ま去^きの^の白^{はく}お^おう^うの

一 史 十 月

遊^{あそ}去^き

去^きを^をこ^この^の西^{せい}月^{げつ}去^きを^をこ^この^の西^{せい}月^{げつ}
一^一遊^{あそ}去^きを^をこ^この^の西^{せい}月^{げつ}
遊^{あそ}去^きを^をこ^この^の西^{せい}月^{げつ}
遊^{あそ}去^きを^をこ^この^の西^{せい}月^{げつ}

一 榮 金 大 施 一 具

掛^か三^{さん}と^と

掛^か三^{さん}と^との^の三^{さん}と^との^の三^{さん}と^と
掛^か三^{さん}と^との^の三^{さん}と^との^の三^{さん}と^と
掛^か三^{さん}と^との^の三^{さん}と^との^の三^{さん}と^と
掛^か三^{さん}と^との^の三^{さん}と^との^の三^{さん}と^と

一 具

大 之 十 日

お^お去^きや^や掛^かの^の去^きを^をれ^れ一^一大^{だい}去^きの^の
お^お去^きや^や掛^かの^の去^きを^をれ^れ一^一大^{だい}去^きの^の
お^お去^きや^や掛^かの^の去^きを^をれ^れ一^一大^{だい}去^きの^の
お^お去^きや^や掛^かの^の去^きを^をれ^れ一^一大^{だい}去^きの^の

一 史 十 月 水 楓 山 楓 水 楓 山 楓

除^{ちりま}夜^や

さうりしむい 影をかくま 除夜の言
除夜もさうりさかりの言やま井テ
身役も除の明り 除夜の 禊
然すつらういさういさうい 除夜の言

柳 室
ちりま
守中

暮^{くれ}年^{ねん}

くれすの 暮年 和 籍の あい まま
まの 暮てくれいさう 暮年の 暮
暮すの 阿ま 暮をぬすの くれ
とりの 暮 暮まぬすといまぬす
新 暮の 暮をいさう 暮年の 暮
ますの 暮 暮すの くれ

史 子
阜 池
几 人
六 具
六 彈
蓬 陽

年^{ねん}内^{うち} 春^{はる}

何れしむい 暮すの くれ
暮すの 暮すの くれ
暮すの 暮すの くれ
暮すの 暮すの くれ
暮すの 暮すの くれ
暮すの 暮すの くれ
暮すの 暮すの くれ
暮すの 暮すの くれ
暮すの 暮すの くれ
暮すの 暮すの くれ

車 古
而 石
嶺 布
暮 洞
物 宣
十 教
暮 行
古 行
暮 行

冬朗詠

風のあふくも雪も降るも且ぬる
 冬も水や古器のへ隙をつくる
 杉風や時雨の中の新しき雪
 列年滝のうけてはくまの枝
 清きくぬきあり冬の松 松
 岩引して面を都々の石 松
 流るや社に流るくまの松
 雪ハうくぬきありて冬の里
 松のうくぬきありて冬の里
 舟戸もくぬきありて冬の里

風 朔
 深 島
 庭 池
 大 鵬
 改 文
 石 意
 松 價
 山 外
 自 光
 芦 意

けふも雪も水も降るも且ぬる
 冬も水や古器のへ隙をつくる
 杉風や時雨の中の新しき雪
 列年滝のうけてはくまの枝
 清きくぬきあり冬の松 松
 岩引して面を都々の石 松
 流るや社に流るくまの松
 雪ハうくぬきありて冬の里
 松のうくぬきありて冬の里
 舟戸もくぬきありて冬の里

一 舟
 一 具
 松 意
 由 誓
 葉 終
 小 葉
 文 昇
 阜 郎
 一 具
 松 價
 丁 知
 逸 淵

とくをむむん別あり海と山
 舟用ありり水のこころなりとよこ
 暇のあつたを隣の垣ひしく
 ありききるし庭ちて里や年信を
 まる遠くくしと里ふくよまをく

米吳
 ちを
 カ久
 一守
 梅室

江戸下谷御成道青雲堂英文藏版俳書目録

俳諧一葉集

前後編 全九冊

芭蕉の句後句附合文章 巻活相則
 巻活相息小委ノ集

俳諧故人九百題

全二冊

掌中故人五百題

全一冊

續故人五百題 一具庵撰

全二冊

發句五百題 白雄房撰

全二冊

新五百題 田喜庵撰

全二冊

新く五百題 同撰

全二冊

近世五百題 笠庵鳥吟撰

全二冊

嘉永五百題 愛川撰

全二冊

今人五百題 東溟撰

全二冊

續今人五百題 梅本為山撰

全二冊

同 三篇 今撰

全四冊

安政五百題 俳禪居墨岩撰

全二冊

群玉集 小築庵西撰 過日電

全四冊

十萬發句集 洞海會撰 一真菴撰

全四冊

發句類集 八采園撰

全二冊

名所千題集 田喜庵撰

全三冊

今人百家類題 過日電撰

全二冊

近世十家類題 過日電撰

全二冊

近世名家類題 全撰

全四冊

題林發句集 由誓撰

全四冊

安政附合集 半青居新甫撰

全一冊

海内人名錄 惺庵西馬撰

全二冊

今七部集

全一冊

利根太郎 了知撰 木本乃撰 櫻撰

一、二、三 沙鷗撰 長善撰 德撰

いふり 峯撰 蒼龍撰 藤本撰 康撰

栗柿 小園撰

曉臺七部集

全二冊

望雲集 秋中 柳家 依海日記
去るう歌 秋の川 春のしら

乙二七部集

全二冊

秋のしら 川のしら 春のしら
秋のしら 川のしら 春のしら

蒼虬發句集 過日庵撰

全二冊

風俗文選拾遺

全二冊

俳諧寂茶 白樺撰

全二冊

全饒舌録 元木綱撰

全二冊

大補四季の持扇 山金堂撰

全一冊

是書四季の分りて各季 文中に州を名に記し各季に合はるる句を
加へて其の是を記したるなり

○掌中寸珍物

發句五百題 白樺撰

全二冊

芭蕉翁句集

全一冊

其角發句集

全三冊

嵐雪發句集

全二冊

乙申發句集

全二冊

兼太發句集

全二冊

發句新九百題 山金堂撰

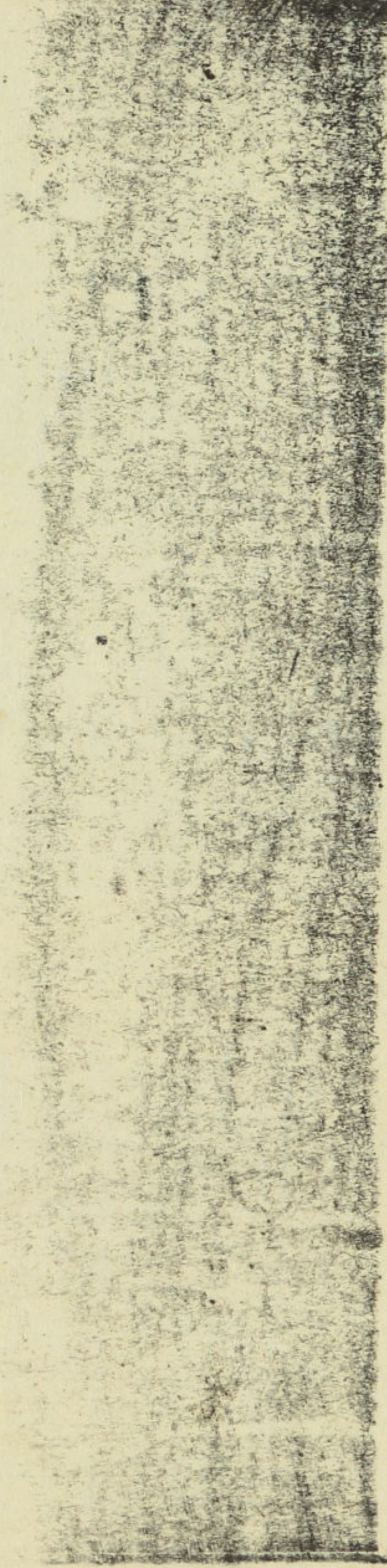
全三冊

發句古今撰

全一冊

俳諧四季草 翁好門人集撰

全四冊



天下

登龍丸

食物一切

一粒入
百四八文

たんせきりょうおんこくしんじん

此の丸は天下奇功ありて秘法にて煉成る竹一篋の物すまじり強き十年廿年痲痺しやくし此丸痛を治さうりやくし又面吹やく丸をすうり痛減所も毒を治す丸も強き此丸を粒を丸の巡り教へ易く難治を巡りも利ある村にたれるやく丸を治す丸とす面吹は心身をひいた痛くもさうり疑なき見たりやく丸の液れと補ひ丸魚をさぐらう御腎を潤し力をま



一 夢と云ふは心ならずもやう小痰を起し一 夢遊命
多敷く入るは心ならずも功のなるものなり
不思議の妙業を功と云ふは

十餘年喘息

一 奇效の類

風の噴

如らせき

咽喉せりつま

小痰の毒せらへん

痰然りつらぬいでん

痰小血交り

痰飲しても出ん

動転つらぬ心伸

小兒百日咳

脾命はあ産後の噴

面飲くも心痛

一 面飲くも心痛

此外痰喘を飲する能く病一切す

一 老若男女のつらぬ心伸の時も痰を起すものなり

抑痰薬の効をせりつらぬ心伸の物なり

一 咳をせりつらぬ心伸の物なり

一 痰をせりつらぬ心伸の物なり

一 痰をせりつらぬ心伸の物なり

一 痰をせりつらぬ心伸の物なり

一 痰をせりつらぬ心伸の物なり

一 痰をせりつらぬ心伸の物なり

此の書は... 御書物所... 江戸下谷御成道... 青雲堂英文藏製...

東叡山 御書物所 江戸下谷御成道 青雲堂英文藏製

江戸下谷御成道 青雲堂英文藏製

東京

書屋

日本橋通三丁目	須原屋茂兵衛
同 二丁目	山城屋佐兵衛
同 所	小村新兵衛
芝神明前	和泉屋吉兵衛
同 所	岡田屋嘉七
横山町三丁目	和泉屋金右衛門
淺草東町三丁目	須原屋伊八
上野御成道	英屋文藏
上野御成道	橋田屋勝藏
上野御成道	屋平七

